

中学校を核とした施設再配置のイメージ

- 本図は、現在の施設の配置から考えられる当面の方向性を示したもの。
- 3もしくは4拠点への複合化・集約化が考えられる。
- 学校施設の更新は個別施設計画に大きく影響し、かつ、拠点の数と連動するため、小中学校の適正規模・適正配置を検討していく。
- 検討の間、老朽化してしまう施設については、必要であれば長寿命化を図る。

■ 拠点集積型施設・中央館
■ 地域対象施設・分館

【二中区】

- 二中や六小周辺を集約の核とする。
- 二中の立地は市境なので、保健センター(西口移転前提)、市営住宅跡地等の活用も考えられる。

【一中区】

- 一中や三小が立地する文化の森には既に公共施設が集積されている。
- 文化の森の諸施設は地域対象施設や拠点施設を兼ねることが考えられる。

二中や六小に施設を集約した場合、鉄道で分断されてしまう、地域の核となる施設が無い空白エリア。

ヤマジュウ・郷土資料室
歴史・文化財ゾーン

新たに学校施設を核とした集約拠点を作ることを、学校の適正規模・適正配置と並行して検討する。

【三中区】

- 福祉センター・三中周辺に地域対象施設を集約させることが考えられる。

平成二十九年三月作成

福生市

八王子市